

科目名	高次脳機能治療学実習				授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23回	時間数	45時間 (1単位)	配当学年・時期	作業療法士科3年		必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

脳損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、しばしば日常生活に大きな影響を及ぼすことになる。損傷部位や観察および面接の結果をもとに症状を推測し、各障害像に合わせた神経心理学評価を選択、実施し、適切な対応方法を計画できるようにすることを目的とする。

〔授業全体の内容の概要〕

高次脳機能障害評価学の基礎知識を基にして、各症状の発生経緯・ADL上の問題行動・評価・介入ストラテジーを関連付けて、講義および演習にて学習する。

〔講師の実務経験〕

新行橋病院、宝塚第一病院、宝塚リハビリテーション病院にて作業療法として従事

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

脳損傷患者の基礎情報(損傷部位・生活上で見られる症状など)から各障害像を推測し、適切な評価・介入方法を計画できることを目的とする。

回数	講義内容
1	高次脳機能障害の介入の基本(OTの視点を含めて)
2	高次脳機能障害の評価の概要と評価計画の実際
3	意識・注意機能障害と脳画像①
4	意識・注意機能障害と脳画像②
5	意識障害と認知機能障害について
6	意識障害と認知機能障害および注意機能障害への介入
7	半側空間無視および注意障害について
8	半側空間無視の評価
8	半側空間無視、視覚失認とその他の失認への介入
10	記憶の障害について
11	記憶の障害への介入
12	言語の障害について
13	言語の障害への介入
14	感情障害について
15	失行、行為・行動(社会的行動障害と感情障害)の障害について
16	失行、行為・行動(社会的行動障害と感情障害)の障害への介入
17	遂行機能障害について
18	前頭葉機能障害・遂行機能障害への介入と脳画像の読影
19	社会的行動障害とその介入(治療計画立案を含めて)
20	症例を用いた評価計画の立案
21	症例を用いた評価と治療計画の立案
22	症例に合わせた治療プログラムの実践
23	まとめ
	定期筆記試験

〔準備学習・時間外学習〕

〔使用テキスト〕

書籍名	著者名	出版社
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト高次脳機能障害学作業療法学 改定第2版		メジカルビュー
CD-ROMでレッスン脳画像の読み方 第2版		医歯薬出版

〔単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など)〕

小テスト・定期試験の結果を合わせてテスト点数の評価を行う。